

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

| | | | |
|---|---|-----------|--|
| 審議会等名称 | 令和6年度 第3回 学校運営協議会及び学校評議員会 | | |
| 開催日時 | 令和6年 12月 11日(水) | | |
| 開催場所 | 横浜平沼分教室 視聴覚室 | | |
| 出席者 | 令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 8名(本校校長を含む) 令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 5名 | | |
| 次回開催予定日 | 令和7年2月 26日(水) | | |
| 問合せ先 | 神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 坂梨 尚美 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716 | | |
| 下欄に掲載するもの | 議事録 | 議事概要とした理由 | |
| 審議(会議)経過 | | | |
| <p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月25日に開催するタウンミーティングが上手く進むよう願っている。 <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月5日(木)に入学選抜募集人数は本校45名 分教室各15名。 受検者は本校36名、舞岡分教室13名、平沼分教室16名。 県教育委員会は「希望者全員を受け入れる」が基本方針だが、募集人数を上回った場合は抽選を行い進路先を変更してもらう。今回、平沼分教室から1名変更となった。 ・本校では体育館と木工室の空調工事が進み、よい教育環境をめざしている。 ・来年2月から新たな工事。今後数年間の増加を見据えてプール棟横に新たに2階建て8教室を増築し、R7年中に建設完成予定。 ・送迎時の駐車場混雑解消に向けて正門側の花壇を撤去しスペース確保に努めていく。 ・本日も分教室の教育内容や進路支援・指導に対し、忌憚のない意見をいただきたい。 <p>3 出席者及び会成立の確認(事務局) 副校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8名出席、会は成立 <p>4 資料確認、流れ説明(事務局) 副校長</p> <p>5 議題「分教室の取組み」(報告・説明)</p> <p>副校長) 分教室の概要 資料「輝けきみの明日」より抜粋 舞岡 田んぼの活動に特色あり 卒後状況報告 平沼 社会人となるために必要な基礎的な指導に特色あり 卒後状況報告</p> <p>○各分教室 パワーポイント資料に沿って進路指導・支援に焦点を当てて説明した。 また、インクルーシブ教育実践推進校など学びの場が多様化し、以前と比較して分教室に入学する生徒の実態が変化していることにも触れた。</p> | | | |

◆質疑応答

廣岡氏) 進路状況中の在宅は、具体的にどのようなものか。

舞岡分 渡部) 転居事例。

教頭 小倉) 本校4名は不登校などの理由。

どの学年でも入学後しばらくすると足が遠のくケースが増えている。

ICT (Google Classroom) を利用してアプローチを工夫している。

奥川氏) 高等部からか? 小学部でもそのようなケースはあるか?

教頭 小倉) 小中からそのような方もいる。

岸川氏) ここ数年どこの学校、校種でも、不登校は増えていて課題である。

栗原氏) 就労Bが多く、就労Aや就労移行が少ないが、最初から福祉を選択するのか?

舞岡分 渡部) 年度によって生徒の実態が違う。

就労の状況は生徒の自立度と関係があり、実態に合わせて進路指導している。

渡部氏) 卒後の支援で基幹相談などはつながっているか。

教頭 小倉) 可能な限りつなげている。

6 協議 重点課題 分教室における「進路支援・進路支援」について

教頭 小倉) 資料に沿って説明に続き課題提供

- ・企業でも入ってくる人の変容を感じるか、また、どんな対応をしているか。

- ・不登校対策なども含めて、地域の方からも対応について伺いたい。

渡部氏) 学校から提起された課題について委員のご意見を伺いたい。

栗原氏) 企業代表として。舞岡の取り組み、卒業生のお話を聞くことはいいと思う。

生徒もお金の話など興味を持つのだろう。

実習にどんどん出してほしい。実習することで現場の声が保護者に伝わると思う。

自信がないことについては経験をどんどん積むことが重要だと思う。

今村氏) 統合失調症の方に関わっている。本人だけでなく家族とも関わる。

事業所に行けたり行けなかったりの状況だが、家族は働いてほしいと考えている。

まずは身近にある事業所でのアルバイトを薦め、地域ケアプラザで保護者も巻き込んでカンファレンスを行ってる。

奥川氏) 保護者の考えはいくつかパターンがあり、無理にさせなくてもという実態もある。

働きたいという、本人の意思があるのなら汲んであげるべきかと思うが、生産力という観点で見られると親としてはプレッシャーを感じることもある。

渡部氏) 本人と保護者のずれがある時にどういう支えがあればいいだろうか。

奥川氏) 担任に子どものことをよく知ってもらうことから始める。

信頼が持てて、「この先生なら」と話していけるのではないか。

渡部氏) 共通点、共通理解を持つことですね。

岸川氏) 前職は厚木西校長3年間、インクルーシブ教育実践推進校だった。

連携生21人のうちほとんどが手帳所持者で、以前の分教室の層が流れてきている。

インクル校は集団での学びが大前提で、就労を考えるなら分教室を進めている。

生徒で就労を希望する者はあまりいない。

経済的にも安定している家庭が多く、卒業後は進学を考えるケースが多い。

(就労を考えさせたいなら) ターゲットは20才くらいだと考える。

(全ての校種において) 不登校は共通課題となっている。

コロナの時期に学校に行けなかったが、その後、ちょっとでも具合が悪ければ休むということがあたりまえになっている。

さらに、学校に行かなくても学びの場が広がっており、一つの学校だけで対応することではないのではと考える。

廣岡氏) 生活介護の事業所は減っていて、就労への流れはある。

一方で、無理をして就労し、つぶれて生活介護でも対応困難なケースもある。

生活介護事業所だが利用者は「介護」を受けているのではなく、生産性のある仕事をしており、工賃ももらっている。

就職率にこだわると、親のプレッシャーも出てくると感じる。

浅野氏) 昨年、重点施策として「企業で必要な力」について講演したことで効果もあった。

インクルーシブ校の進路は進学4割 就労4割 その他福祉2割。

進学しても、中退して就労する者もいる。

保土ヶ谷の分教室は進路見学会などよくやっている。

他校の目標となるように今後も取り組んでほしい。

どういう生徒が増えたからどう対応したかを、PDCAによる先進的な取り組みを期待する。

渡部氏) 協議の時間は今後もしっかりと取りたい。

昨年度の取り組みに加えて、実態の変化に応じた教育課程や進路学習を改善してきたことについて、数年間の取り組みとその効果を検証しながら、振り返り、評価をしてほしい。

(生徒の) 実態にどう合わせられるかは否応なく求められている。

美術の授業で才能のある生徒を見た。そのような才能ある生徒にスポーツ、文化、芸術の面でどのような支援をしていくか、生涯学習の観点でも考えてほしい。

また、地域の資源として、DNA(横浜バイスターズ)など新たな連携の強化も、検討していただきたい。

7 事務連絡 次回 令和7年2月26日(水)9:45 会場は本校

8 副会長挨拶 本日は話した通りです。

9 会長挨拶 進路の強みのある学校であり、持ち味を充実させるためにも、議論を継続させていただきたい。また、タウンミーティングに向けてよろしくお願ひします。

～本会において、各内容が承認された～